

令和7年度 附属幼稚園経営計画（骨子案）

1 めざす学校像等 （不変・永続的目標）

・幼稚園像

子どもの自主性・自発性の発露である「遊び」を大事にし、そこに教員も一緒になって関わりながら「共に成長・発展していける」ような、「元気と笑顔が溢れる」幼稚園をめざします。

・子ども像

かしこさ（知）、やさしさ（徳）、たくましさ（体）の調和のとれた、「心身ともにたくましい子ども」を育てます。すなわち、自ら様々な活動を「遊ぶ」ことができる子ども、さらに小学校教育の基盤となる資質・能力を持った子どもを育成します。

・教員像

限られた時間の中で優先すべき事柄は何かを考えつつ、他者と協働して保育や業務に取り組みます。また、自身の保育や研究についての取り組みを相対化する姿勢を持って様々な実践や意識に耳を傾けるとともに、スキルアップのための研修に自ら取り組みます。

〈幼稚園教育目標〉

- ① 心身ともにたくましい子どもの育成、② 健康な体の子ども、③ よく考えて最後までやりぬく子ども

〈幼稚園運営目標〉

- ① 子どもが「幼稚園に来るのが楽しい」、保護者は「通わせて良かった」と思える幼稚園づくり
② 教員が互いの特徴〈得意・不得意〉を理解し合った上で、各々の良さが発揮される教員集団づくり
③ 本園の魅力の地域への広報・発信とそれによる園児確保

2 中期的目標（3年間程度：継続、朱書きが7年度重点項目）

（1）魅力的な園づくり ―附属園としての役割遂行―

1）働きやすい園内組織と教員集団づくり

- ・教員が保育に集中できる環境づくり
- ・教員研修の充実

2）特徴的かつバランスの良い保育実践の創出と教員養成への貢献

- ・担任の個性が活かされた保育や行事の実現
- ・うれしのタイムと学年学級活動の接続
- ・ICTを活用した保育の推進
- ・小学校（教育）とのスムーズな連結
- ・学部生に対する実地教育の充実

* 上記目標に関する補足

教員の「個人的な研修機会の確保」はもちろんであるが、各担任が幼児教育の5領域（健康、言語、人間関係、環境、表現）をバランスよく保育できるよう、教員全体を対象とした研修・勉強会を設定する。そのことにより、担任による保育の差をできるだけ解消するとともに、担任が変わっても系統的に継続的に保育できる体制を構築する。また、進行する少子化により、現在の1クラス人数（10名程度、各学年2クラス）だけでは園児の十分な成長・発達につながらない部分も見られるようになってきた。7年度は教育的効果を生み出しうる学級・学年活動のあり方について実践面（運用での可能性）で工夫するとともに、制度的変更についても検討を開始する。

3) 大学（含. 幼年教育・発達支援コース）との連携・協働

- ・ 幼年教育発達支援コース等との連携による保育と研究の充実
- ・ 幼児期としての Steam 教育の一層の推進

この数年間の大学教員との連携・協働をさらに拡充して、上記5領域に関わる多様な専門分野の教員と連携することで保育の質向上に繋げる。また、大学教員の研究にも積極的に協力する。

(2) 園の魅力の発信 ―園児確保に向けて―

1) 預かり保育の充実

幼稚園教育要領にも預かり保育が記載されていることから、その量的・質的充実は不可避である。

7年度は、これまでに明らかになった課題（預かり保育を可能な限り通常保育のレベルに近づける）に対して、担任や副担任が可能な範囲で関わる体制を整備していく。そのことにより、預かり指導員の資質向上にも繋げていく。

- ・ 長期休暇中の保育内容の充実
- ・ 預かり保育指導員の研修の充実

2) 園の保育についての公開と発信

- ・ 大学や加東市の展覧会への積極的参画
- ・ オープンスクールの定期的実施
- ・ 未就園児施設（かとう Genki 等）との連携

3) HP や SNS 等を使った効果的な園の情報発信

(3) 親育てへのアプローチ

昨年度は園児の欠席が特に目立った。幼少期においては体調の変化が激しいことがその原因であるが、家庭での保護者の関わりや生活の仕方が大きく影響している。今年度は欠席が目立つ園児を中心に、カウンセラーとも連携しつつ、「管理職として懇談をする」など、個別にアプローチしながら親育てに一層取り組む。